

反帝国主義・反スターリン主義
万国の労働者・被抑圧民族
団結せよ!

革命的共産主義者同盟関西地方委員会

革共同通信

発行所 前進社関西支社

大阪市淀川区東三国6-23-16

創刊準備号 2008年1月1日 1部200円

毎月第1、第3月曜日発行

(次号は1月21日発行)



革共同中央の第二インターへの転落弾効! サミット粉碎・改憲阻止決戦を闘おう!

すべての同志・支持者・友人のみならず!
革共同関西地方委員会は○七年十一月中旬、関西地方委員会党員総会を開催し、第二インターに転落する安田派中央と対決して、革命的共産主義運動の歴史を画する新たな第一歩を踏み出した。

切迫する米日帝国主義による北朝鮮(朝鮮民主主義人民共和国)侵略戦争と日帝の改憲攻撃に対して「闘うアジア人民と連帯し、日帝のアジア侵略を内乱に転化せよ!」「米軍基地撤去」「沖繩奪還」「安保粉碎・日帝打倒!」「戦争国家化阻止!」「改憲粉碎・日帝打倒!」のたたかいを全面的に推進し、戦略的総路線

改憲阻止決戦の意義
○八年における日本階級闘争の課題は、日帝ブルジョアジーによる戦争国家化改憲攻撃に対して労働者階級人民の大衆的戦闘的決起を促進する広範な闘争陣形の構築と、非正規雇用問題を焦点とした労働運動の戦闘的階級の再生である。

○七年の日本階級闘争は六回大会決定をいままご全面的に推進すべきであることを示した。九二一九歴史教科書検定撤回を求める沖繩十一万六千人決起、十二・一軍機移転に反対する岩国一万一千人決起は米軍再編をめぐって第三次安保・沖

改憲阻止決戦の意義
○八年における日本階級闘争の課題は、日帝ブルジョアジーによる戦争国家化改憲攻撃に対して労働者階級人民の大衆的戦闘的決起を促進する広範な闘争陣形の構築と、非正規雇用問題を焦点とした労働運動の戦闘的階級の再生である。

改憲阻止決戦の意義
○八年における日本階級闘争の課題は、日帝ブルジョアジーによる戦争国家化改憲攻撃に対して労働者階級人民の大衆的戦闘的決起を促進する広範な闘争陣形の構築と、非正規雇用問題を焦点とした労働運動の戦闘的階級の再生である。

改憲阻止決戦の意義
○八年における日本階級闘争の課題は、日帝ブルジョアジーによる戦争国家化改憲攻撃に対して労働者階級人民の大衆的戦闘的決起を促進する広範な闘争陣形の構築と、非正規雇用問題を焦点とした労働運動の戦闘的階級の再生である。

改憲阻止決戦の意義
○八年における日本階級闘争の課題は、日帝ブルジョアジーによる戦争国家化改憲攻撃に対して労働者階級人民の大衆的戦闘的決起を促進する広範な闘争陣形の構築と、非正規雇用問題を焦点とした労働運動の戦闘的階級の再生である。

改憲阻止決戦の意義
○八年における日本階級闘争の課題は、日帝ブルジョアジーによる戦争国家化改憲攻撃に対して労働者階級人民の大衆的戦闘的決起を促進する広範な闘争陣形の構築と、非正規雇用問題を焦点とした労働運動の戦闘的階級の再生である。

改憲阻止決戦の意義
○八年における日本階級闘争の課題は、日帝ブルジョアジーによる戦争国家化改憲攻撃に対して労働者階級人民の大衆的戦闘的決起を促進する広範な闘争陣形の構築と、非正規雇用問題を焦点とした労働運動の戦闘的階級の再生である。

改憲阻止決戦の意義
○八年における日本階級闘争の課題は、日帝ブルジョアジーによる戦争国家化改憲攻撃に対して労働者階級人民の大衆的戦闘的決起を促進する広範な闘争陣形の構築と、非正規雇用問題を焦点とした労働運動の戦闘的階級の再生である。

改憲阻止決戦の意義
○八年における日本階級闘争の課題は、日帝ブルジョアジーによる戦争国家化改憲攻撃に対して労働者階級人民の大衆的戦闘的決起を促進する広範な闘争陣形の構築と、非正規雇用問題を焦点とした労働運動の戦闘的階級の再生である。

改憲阻止決戦の意義
○八年における日本階級闘争の課題は、日帝ブルジョアジーによる戦争国家化改憲攻撃に対して労働者階級人民の大衆的戦闘的決起を促進する広範な闘争陣形の構築と、非正規雇用問題を焦点とした労働運動の戦闘的階級の再生である。

改憲阻止決戦の意義
○八年における日本階級闘争の課題は、日帝ブルジョアジーによる戦争国家化改憲攻撃に対して労働者階級人民の大衆的戦闘的決起を促進する広範な闘争陣形の構築と、非正規雇用問題を焦点とした労働運動の戦闘的階級の再生である。

改憲阻止決戦の意義
○八年における日本階級闘争の課題は、日帝ブルジョアジーによる戦争国家化改憲攻撃に対して労働者階級人民の大衆的戦闘的決起を促進する広範な闘争陣形の構築と、非正規雇用問題を焦点とした労働運動の戦闘的階級の再生である。

改憲阻止決戦の意義
○八年における日本階級闘争の課題は、日帝ブルジョアジーによる戦争国家化改憲攻撃に対して労働者階級人民の大衆的戦闘的決起を促進する広範な闘争陣形の構築と、非正規雇用問題を焦点とした労働運動の戦闘的階級の再生である。

改憲阻止決戦の意義
○八年における日本階級闘争の課題は、日帝ブルジョアジーによる戦争国家化改憲攻撃に対して労働者階級人民の大衆的戦闘的決起を促進する広範な闘争陣形の構築と、非正規雇用問題を焦点とした労働運動の戦闘的階級の再生である。

改憲阻止決戦の意義
○八年における日本階級闘争の課題は、日帝ブルジョアジーによる戦争国家化改憲攻撃に対して労働者階級人民の大衆的戦闘的決起を促進する広範な闘争陣形の構築と、非正規雇用問題を焦点とした労働運動の戦闘的階級の再生である。

改憲阻止決戦の意義
○八年における日本階級闘争の課題は、日帝ブルジョアジーによる戦争国家化改憲攻撃に対して労働者階級人民の大衆的戦闘的決起を促進する広範な闘争陣形の構築と、非正規雇用問題を焦点とした労働運動の戦闘的階級の再生である。

改憲阻止決戦の意義
○八年における日本階級闘争の課題は、日帝ブルジョアジーによる戦争国家化改憲攻撃に対して労働者階級人民の大衆的戦闘的決起を促進する広範な闘争陣形の構築と、非正規雇用問題を焦点とした労働運動の戦闘的階級の再生である。

改憲阻止決戦の意義
○八年における日本階級闘争の課題は、日帝ブルジョアジーによる戦争国家化改憲攻撃に対して労働者階級人民の大衆的戦闘的決起を促進する広範な闘争陣形の構築と、非正規雇用問題を焦点とした労働運動の戦闘的階級の再生である。

改憲阻止決戦の意義
○八年における日本階級闘争の課題は、日帝ブルジョアジーによる戦争国家化改憲攻撃に対して労働者階級人民の大衆的戦闘的決起を促進する広範な闘争陣形の構築と、非正規雇用問題を焦点とした労働運動の戦闘的階級の再生である。

改憲阻止決戦の意義
○八年における日本階級闘争の課題は、日帝ブルジョアジーによる戦争国家化改憲攻撃に対して労働者階級人民の大衆的戦闘的決起を促進する広範な闘争陣形の構築と、非正規雇用問題を焦点とした労働運動の戦闘的階級の再生である。

改憲阻止決戦の意義
○八年における日本階級闘争の課題は、日帝ブルジョアジーによる戦争国家化改憲攻撃に対して労働者階級人民の大衆的戦闘的決起を促進する広範な闘争陣形の構築と、非正規雇用問題を焦点とした労働運動の戦闘的階級の再生である。

○七年闘争の地平
○七年の日本階級闘争は六回大会決定をいままご全面的に推進すべきであることを示した。九二一九歴史教科書検定撤回を求める沖繩十一万六千人決起、十二・一軍機移転に反対する岩国一万一千人決起は米軍再編をめぐって第三次安保・沖

○七年闘争の地平
○七年の日本階級闘争は六回大会決定をいままご全面的に推進すべきであることを示した。九二一九歴史教科書検定撤回を求める沖繩十一万六千人決起、十二・一軍機移転に反対する岩国一万一千人決起は米軍再編をめぐって第三次安保・沖

○七年闘争の地平
○七年の日本階級闘争は六回大会決定をいままご全面的に推進すべきであることを示した。九二一九歴史教科書検定撤回を求める沖繩十一万六千人決起、十二・一軍機移転に反対する岩国一万一千人決起は米軍再編をめぐって第三次安保・沖

○七年闘争の地平
○七年の日本階級闘争は六回大会決定をいままご全面的に推進すべきであることを示した。九二一九歴史教科書検定撤回を求める沖繩十一万六千人決起、十二・一軍機移転に反対する岩国一万一千人決起は米軍再編をめぐって第三次安保・沖

○七年闘争の地平
○七年の日本階級闘争は六回大会決定をいままご全面的に推進すべきであることを示した。九二一九歴史教科書検定撤回を求める沖繩十一万六千人決起、十二・一軍機移転に反対する岩国一万一千人決起は米軍再編をめぐって第三次安保・沖

生をめぐって○八春闘に全力をあげて取り組む。○八春闘のテーマは「格差社会の打破」「非正規雇用労働者に正規労働者と同じ賃金・労働条件を」「大幅賃上げの実現」である。とくに非正規雇用問題を決定的に重視する。われわれは必ずや民間基幹産業の深部に反スターリン主義・革命的共産主義の旗を打ち立てるであろう。

重要なのは労働運動と改憲阻止闘争である。改憲阻止闘争を全面的に推進する。第一にG8サミットを粉碎する。これは○八年前半の最大の闘争課題である。全世界の労働者階級人民および被抑圧民族人民と連帯して、帝国主義強盗会議を粉碎しよう。第二に、沖繩・辺野古闘争やPACIII配備阻止闘争をはじめ米軍再編と対決する全国基地闘争である。沖繩や岩国の闘いは大衆の直接行動が情勢決定力であることを示した。三里塚反対同盟との四〇年の血盟にかけて市東孝雄さんの農地強奪実力阻止に断固として決起し、大衆の実力闘争の復権をかちとろう。

第三に、以上の闘いで、改憲をめぐる階級決戦に広範な労働者階級人民の決起を促進する統一戦線を形成することである。

○八春闘に決起しよう
われわれは日本労働運動の戦闘的階級の再生をめぐって○八春闘に全力をあげて取り組む。○八春闘のテーマは「格差社会の打破」「非正規雇用労働者に正規労働者と同じ賃金・労働条件を」「大幅賃上げの実現」である。とくに非正規雇用問題を決定的に重視する。われわれは必ずや民間基幹産業の深部に反スターリン主義・革命的共産主義の旗を打ち立てるであろう。

重要なのは労働運動と改憲阻止闘争である。改憲阻止闘争を全面的に推進する。第一にG8サミットを粉碎する。これは○八年前半の最大の闘争課題である。全世界の労働者階級人民および被抑圧民族人民と連帯して、帝国主義強盗会議を粉碎しよう。第二に、沖繩・辺野古闘争やPACIII配備阻止闘争をはじめ米軍再編と対決する全国基地闘争である。沖繩や岩国の闘いは大衆の直接行動が情勢決定力であることを示した。三里塚反対同盟との四〇年の血盟にかけて市東孝雄さんの農地強奪実力阻止に断固として決起し、大衆の実力闘争の復権をかちとろう。

第三に、以上の闘いで、改憲をめぐる階級決戦に広範な労働者階級人民の決起を促進する統一戦線を形成することである。

○八春闘に決起しよう
われわれは日本労働運動の戦闘的階級の再生をめぐって○八春闘に全力をあげて取り組む。○八春闘のテーマは「格差社会の打破」「非正規雇用労働者に正規労働者と同じ賃金・労働条件を」「大幅賃上げの実現」である。とくに非正規雇用問題を決定的に重視する。われわれは必ずや民間基幹産業の深部に反スターリン主義・革命的共産主義の旗を打ち立てるであろう。

革共同関西党員総会
報告・決定集

第一報告 「11.6政治局決定」を批判する
第二報告 「関西WOB」を凍結せよ
第三報告 「7月テーゼ」の撤回を求める
付属資料 他

革命的共産主義者同盟
関西地方委員会

A5版 154頁 800円

発売中 革共同関西党員総会 報告・決定集

革共同中央の組織破壊・路線的変質に抗して、
関西地方委員会が党員総会を開催

「階級的労働運動路線」の名で、政治闘争・改憲決戦と、
職場での労働組合運動を否定し、「07年7月テーゼ」
で差別・排外主義との闘いを放棄したことに対する、
全面的批判の議案と、20人の発言、付属資料を収録

党中央変質の核心問題を明らかにする!

巻頭アピール/総会コミュニケ
第一号議案 「11.6政治局決定」を批判する
第二号議案 党を分裂させる「関西WOB」を凍結せよ
第三号議案 (1)7月テーゼの撤回を求める 他
付属資料
7月テーゼ批判 関西入管闘争委員会
自己批判と決意 椿 邦彦
労働者党員の意見書 他

関西党員総会 革共同の革命的再生へ、熱烈な発言続く

革共同関西党員総会は11月中旬、大阪府下で関西の過半数を超える党員が結集し、戦闘的に闘いとられた。総会ではこの間の革共同中央と安田派のスターリン主義的組織運営、「階級的労働運動路線」の名での改憲決戦・政治闘争と職場での労働運動の否定、さらには7月テーゼ推進と称しての広島での部落差別事件への居直りに対し怒りの発言が続いた。各府県・各産別・各戦線から、三全総世代から70年世代、85年世代、マル青労同で闘う同志まで、20本を超える発言が続いた。全体は報告集にゆずるが、3同志の発言を掲載する。

「階級的労働運動路線」では 革命はできない——山田

結論だけ言います。私は今の党中央、安田分派と違っていいと思いますが、本当にこれは間違っていると思えます。私は3全総・4全総のころ党に結集したわけですが、これをうけつづけて3回大会、二重対峙・対カクマル戦、フェイズI・フェイズIIを闘い、5月テーゼ、19全総、6回大会と、紆余曲折しながらも築き上げてきた革共同の革命路線が正しいと思えます。

暴力革命・一斉武装蜂起の否定

今の安田分派の唱えているいわゆる「階級的労働運動路線」というものは、この党の路線から逸脱している。これでは革命は出ないと思えます。また路線的な間違いだけじゃなく、党運営においても、自分たちの路線に反対する者には反論を許さず、袋叩きにするあり方は、本当の革命党のあり方ではない。私は今の事態は極めて憂慮すべきだけれども、今ここではつきりと分派闘争をやつて、その中でわれわれ

在日の人たちとの連帯が欠落

次在日の人たちの闘いについても、日本プロレタリア革命にとつて在日の人たちが朝鮮革命と連帯して決起すること、日本の労働者階級が結びついても闘うというところがなければ、絶対勝利できないと思えます。それが、そうした路線が一切消えている。

それから「7月テーゼ」でも広島部落差別事件を完全に置き直つて、「7月テーゼ



11月集会後、10列の隊列でデモ行進する関西の仲間

り合っているように見えるかもしれませんが、決してそうではなく、安田一派が、動労千葉というわれわれの党の精華を根拠にして、党を強引に変質させようとしている。ここが一切の問題なんです。

僕は今年の4月に、全通総会で、「4・28問題」についての安田同志の誤りを批判しました。そして「3・14決起のときにあなたはなぜ自己批判を拒否したのか」と言いました。

そのときの安田同志の回答が、「お前は党を出て行け」だったんです。三十数年間党の看板背負ってやってきた人間に対し、「出て行け」と言われたことは、絶対許せない。彼らの思想の転換があったと思えます。

僕は革共同の旗を守るといふことについて、誰にも負けません。われわれこそが真に階級闘争の大高揚を勝ち取る、そのために全力を挙げるといふことを私自身も決意したいと思えます。

革共同の旗を守るには 誰にも負けぬ——国崎

今日多くの同志の参加のもとに革共同の旗を守り、そして全国に広げていくという総会が行われたことを大変うれしく思います。今年冒頭の合宿で、3・14決起を担いぬいた私たちこそ、これを最後まで貫徹して全党を獲得しなければならぬ、多少気負って提起し

ましたが、現にそうなるわけです。ところが誰も反対できないようなタイトルをつけながら、階級的労働運動とかなりある。労働運動の階級的発展ということに反対する人、これが党の中に誰進んでいる事を、この落差を私たちがちゃんと見る必要があると思います。

お互いに足を引っ張

り合っているように見えるかもしれませんが、決してそうではなく、安田一派が、動労千葉というわれわれの党の精華を根拠にして、党を強引に変質させようとしている。ここが一切の問題なんです。

僕らは革共同の旗を守るといふことについて、誰にも負けません。われわれこそが真に階級闘争の大高揚を勝ち取る、そのために全力を挙げるといふことを私自身も決意したいと思えます。

また、08春闘方針についても議論が深まり、非正規雇用労働者たちの生きるための要求を実現し、格差社会を打破していく反転攻勢の春闘の必要性が確認された。「大失業の時代」論以来の「取れなくとも団結強化で総括する」だけでは、死活的な労働者階級の要求に答えられず、資本との闘いにおいても闘わざる敗北しか意味しない。

次号から、「階級的労働運動路線」を全面的に批判し、真に闘う労働運動の方針を順次うちだしていきたいと思います。

今日多くの同志の参加のもとに革共同の旗を守り、そして全国に広げていくという総会が行われたことを大変うれしく思います。今年冒頭の合宿で、3・14決起を担いぬいた私たちこそ、これを最後まで貫徹して全党を獲得しなければならぬ、多少気負って提起し

ましたが、現にそうなるわけです。ところが誰も反対できないようなタイトルをつけながら、階級的労働運動とかなりある。労働運動の階級的発展ということに反対する人、これが党の中に誰進んでいる事を、この落差を私たちがちゃんと見る必要があると思います。

お互いに足を引っ張

り合っているように見えるかもしれませんが、決してそうではなく、安田一派が、動労千葉というわれわれの党の精華を根拠にして、党を強引に変質させようとしている。ここが一切の問題なんです。

僕らは革共同の旗を守るといふことについて、誰にも負けません。われわれこそが真に階級闘争の大高揚を勝ち取る、そのために全力を挙げるといふことを私自身も決意したいと思えます。

また、08春闘方針についても議論が深まり、非正規雇用労働者たちの生きるための要求を実現し、格差社会を打破していく反転攻勢の春闘の必要性が確認された。「大失業の時代」論以来の「取れなくとも団結強化で総括する」だけでは、死活的な労働者階級の要求に答えられず、資本との闘いにおいても闘わざる敗北しか意味しない。

次号から、「階級的労働運動路線」を全面的に批判し、真に闘う労働運動の方針を順次うちだしていきたいと思います。

また、08春闘方針についても議論が深まり、非正規雇用労働者たちの生きるための要求を実現し、格差社会を打破していく反転攻勢の春闘の必要性が確認された。「大失業の時代」論以来の「取れなくとも団結強化で総括する」だけでは、死活的な労働者階級の要求に答えられず、資本との闘いにおいても闘わざる敗北しか意味しない。



合同関西(9・28)勝ちとった関西(9・28)勝利判決を勝ちとった関西(9・28)勝利判決を勝ちとった関西(9・28)勝利判決を勝ちとった

関西WOBの新たな出発にあたって 労働者党員と常任細胞の結合で 労働運動指導の飛躍を

関西地方労働者組織委員会

そもそも5・20全国WOBの開催から、9月以降の関西WOB建設という名の関西地方委員会への組織破壊攻撃に対して、われわれは党員総会の名でこれを徹底弾劾し、11月以降、新たな闘いを開始した。その一つの到達点として、12月18日に勝ちとられた関西地方委員会の新たな出発だ。

中央の路線歪曲に抗し、真に階級的な労働運動を

安田派によって不当に排除されようとした全通・医療産別等の現場労働者同志たちを先頭にして、地方委員会のもとに建設されたこの労働者組織委員会こそ、マルクス主義の原則にのっとり、労働運動の現状と労働者階級の全面的な検証の必要性が確認された。

改憲決戦と結合した産別決戦と08春闘の課題

また、この会議では、官民を問わず、戦争と民営化攻撃と対決して階級的労働運動を進ませいくために、改憲阻止決戦の高揚を労働運動の底力として切り開き、侵略戦争・

世界戦争をぶつとめていく反戦闘争、政治闘争と経済闘争を含む職場での闘いの正しいあり方について、議論が深められた。「労働運動で革命を」ということで憲法闘争としての憲法闘争すら否定する最大限綱領主義の極みに立った安田派路線では、「4大産別決戦」の具体的展望を示せないのだ。そもそも、サミットをとおしてグローバル化されてきた新自由主義政策と全面的に対決する政治闘争方針ぬきにして、戦争と民営化攻撃と闘う労働運動などありえない。

また、08春闘方針についても議論が深まり、非正規雇用労働者たちの生きるための要求を実現し、格差社会を打破していく反転攻勢の春闘の必要性が確認された。「大失業の時代」論以来の「取れなくとも団結強化で総括する」だけでは、死活的な労働者階級の要求に答えられず、資本との闘いにおいても闘わざる敗北しか意味しない。

次号から、「階級的労働運動路線」を全面的に批判し、真に闘う労働運動の方針を順次うちだしていきたいと思います。

血債領域での党中央の後退・ 分解は本当に許せない——塚原

路線問題で差別問題ではない？

うのは7月テーゼがわかっていないという言い方です。

僕自身は、部落出身です。その立場を含めて発言します。広島

の差別事件について、党中央がどのよう

に指導しているのか、どうい

う言い逃れをしているのか、その背景として7月テーゼにかかわって

言いたい。どうい

う言い逃れをしているのか、それは路線問題であ

って差別事件ではない。党内路線論議を

続けるし、差別されたら部落解放闘争を闘うん

で。この路線論議とい

うのは7月テーゼがわかっていないという言い方です。

決議文は、あの7月

テーゼ自身がこの差別を生み出したんだとい

う捉え方で批判をして

います。差別事件と路線問題、言葉が違えば

実体が違うんだと言

うんです。部落民と労働者は言葉が違うから別

の主体だと。ちよ

と待つてください。部落民の7割は労働者です。労働者として自己解放の闘いを

労働運動の領域でも

やるし、差別されたら部落解放闘争を闘うん

で。この路線論議とい

うのは7月テーゼがわかっていないという言い方です。

決議文は、あの7月

テーゼ自身がこの差別を生み出したんだとい

う捉え方で批判をして

います。差別事件と路線問題、言葉が違えば

実体が違うんだと言

うんです。部落民と労働者は言葉が違うから別

の主体だと。ちよ

と待つてください。部落民の7割は労働者です。労働者として自己解放の闘いを

労働運動の領域でも

やるし、差別されたら部落解放闘争を闘うん

で。この路線論議とい

うのは7月テーゼがわかっていないという言い方です。

決議文は、あの7月

テーゼ自身がこの差別を生み出したんだとい

う捉え方で批判をして

います。差別事件と路線問題、言葉が違えば

実体が違うんだと言

うんです。部落民と労働者は言葉が違うから別

の主体だと。ちよ

と待つてください。部落民の7割は労働者です。労働者として自己解放の闘いを

革共同大阪府委員会の再確立かちとる

「党中央」の組織破壊攻撃に抗して、革共同大阪府委員会の再確立がかちとられた。宣言文を抜粋して掲載する。

大阪府委員会は、12月4日、革共同関西地方委員会党員総会決議に基づき、府選出地方委員として補充選出された2同志のよびかけで、府委員会再建のための会議を開催した。

- I) 「党中央」による府委員会破壊に抗して、府委員会の再確立をかちとった！
- われわれは本日、「党中央」による府委員会破壊を断じて許さず、改憲攻撃の切迫下、06年3・14決起の精神を堅持・継承し、反帝国主義・反スターリン主義世界革命-日本革命の勝利に向け、今こそ、武装し戦う革共同の革命的再生をかけ、府委員会・各地区委員会-細胞の再確立をかちとり、その本格的前進の闘いを開始した。
- われわれは、11月27日付け「府委員解任・出席停止決議」なるものを断じて認めるわけにはいかない。この「決議」は関西党員総会の決議に基づき、関西地方委員を11月25日に解任された府選出地方委員によって一方的に行われた府委員会破壊の暴挙である。
- この間の「党中央」ならびにそれに追従した一部「地方委員」は、「党中央は絶対である」「党中央に無条件に従う事が党員の義務」なるスターリン主義的官僚主義的恫喝をもって、革共同の党組織論の綱領的核心をなす、中央委員会と細胞の同格性を破壊・否定し、細胞が細胞たりうための生命活動の全気孔を封じ込めてきた。

II) 以下の当面する行動綱領の旗の下、労働運動の戦闘的・階級的強化と発展をかちとり、08年-10年改憲絶対阻止の歴史的階級決戦をきりひらこう！

- 「戦争国家化阻止=改憲粉碎・日帝打倒」を真っ向からかけ、当面する「対テロ給油新法」絶対阻止に向けて総決起する。
- われわれは、今こそ全重量をかけて、工場・職場における労働者細胞建設、地域における地区細胞建設を党活動の根幹にすえて、工場・職場、地域において不拔かつ強固な大衆的拠点の形成にむけて闘う。そして労働組合・労働運動の戦闘的・階級的強化・発展をめざして闘う。
- われわれは、反帝・反スターリン主義綱領の根底を貫くものとしてある7・7思想の清算・解体をはかる「7月テーゼ」の撤回を要求する。われわれは、「広島差別事件」は「7月テーゼ」の強制と「党中央」指導が生み出した結果であると確認する。われわれは、「党中央」がうみだした「広島差別事件」について、革命的共産主義者とその党たらんものとして自己批判する。
- われわれは、06年3・14決起の地平を断固堅持し、今、あらためて党中央の革命的再生にむけて断固闘う事を決意する。

III) われわれは、一部指導部による府委員会の私党化策動を許さず、府委員会とそれを構成する地区委員会・細胞のボルシェビキ的再確立のために闘うことを決議し宣言する。

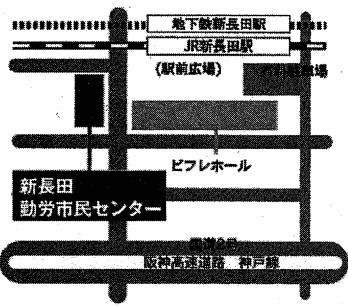
12月4日 革共同大阪府委員会



07年10・23被災地総行動

1・13集会要項

- 日時 1月13日(日) 13時半～
- 場所 神戸・新長田勤労市民センター・3階大会議室
- 主催 被災地総行動参加団体連絡会



その自然発生性を止揚するということに、部落民は、部落解放運動は、差別した個人を問題にするのではなく、その個人を生み出したこの社会の問題を再生産構造を問題にしてきた。社会のあり方を、日本帝国主義を問題にしてきた。だからこそ部落解放闘争は帝国主義打倒の闘いだと確認して闘ってきた。これが僕らの部落解放闘争だったはずで

すべの労働者、労働組合、たたかう仲間。私たちが被災地総行動に参加団体連絡会は、来る08年1月13日に阪神淡路大震災13周年の被災地総行動集会を行います。皆さんのご参加を心より訴えます。07年10月23日の第26回被災地総行動は、番町同和住宅からの追いつけ反対の要求を軸に、生きる権利・働く権利をかけた、番町や西宮・尼崎・大阪の部落解放同盟全国連の仲間、神戸空港に反対する人々、関西合同労働組合や、しごと開発就労者組合など労働組合、そして震災以来力をあわせて生きてきた被災地雇用と生活要求者組合や、被災地労働者企業組合の仲間が80名で神戸市役所へ要求書をつきつける、元気なデモをやりました。その行動を前にして、各団体が協力し神戸市長田区番町地区で生活実態アンケートを行いました。その結果、住人全員が65才以上の世帯が半数近くを占め、収入に応じた家賃値上げによって青年世帯が地区外に出ていき、高齢化が急速に進み、地域が崩壊する寸前であること。労働者の半数が非正規雇用であり、就職差別や家賃値上げによって、生活していけない番町地区住民の実態が浮かび上がりました。このアンケート行動が、参加団体の仲間としての絆を強めたと思います。11月22日の神戸市からの回答は、敬老パスの要求には制度の説明をするだけども、回答せず、番町の要求にたいしてもアンケート結果を一顧だにしないゼロ回答でした。ここから新たな私たちの闘いが始まりました。ここを足がかりに私たち被災地総行動は前進します。当面する闘いは、8年分の家賃をサラ金まがいの年利の利子(延滞金)をつけて払え、払わなければ差し押さえや明け渡しをやるぞと、強制執行で神戸市が番町の住民を追い出そうとしていることに対して、これを絶対に阻止することです。今回の集会は、そのための総決起集会として位置づけていきます。ゲストにノンフィクションライターの島本慈子さんをお招きして、「阪神淡路大震災で感じたこと、現在の雇用破壊と住宅問題(仮題)について講演していただきます。また各団体の共闘の力・団結をかためる場として、寸劇や踊りなどもまじえて楽しい集会にしようと思っております。ぜひご参加下さい。(被災地総行動実行委員会のよびかけ文を一部縮めています)

被災13周年 1・13被災地反失業総行動へ

その自然発生性を止揚するということに、部落民は、部落解放運動は、差別した個人を問題にするのではなく、その個人を生み出したこの社会の問題を再生産構造を問題にしてきた。社会のあり方を、日本帝国主義を問題にしてきた。だからこそ部落解放闘争は帝国主義打倒の闘いだと確認して闘ってきた。これが僕らの部落解放闘争だったはずで

すべの労働者、労働組合、たたかう仲間。私たちが被災地総行動に参加団体連絡会は、来る08年1月13日に阪神淡路大震災13周年の被災地総行動集会を行います。皆さんのご参加を心より訴えます。07年10月23日の第26回被災地総行動は、番町同和住宅からの追いつけ反対の要求を軸に、生きる権利・働く権利をかけた、番町や西宮・尼崎・大阪の部落解放同盟全国連の仲間、神戸空港に反対する人々、関西合同労働組合や、しごと開発就労者組合など労働組合、そして震災以来力をあわせて生きてきた被災地雇用と生活要求者組合や、被災地労働者企業組合の仲間が80名で神戸市役所へ要求書をつきつける、元気なデモをやりました。その行動を前にして、各団体が協力し神戸市長田区番町地区で生活実態アンケートを行いました。その結果、住人全員が65才以上の世帯が半数近くを占め、収入に応じた家賃値上げによって青年世帯が地区外に出ていき、高齢化が急速に進み、地域が崩壊する寸前であること。労働者の半数が非正規雇用であり、就職差別や家賃値上げによって、生活していけない番町地区住民の実態が浮かび上がりました。このアンケート行動が、参加団体の仲間としての絆を強めたと思います。11月22日の神戸市からの回答は、敬老パスの要求には制度の説明をするだけども、回答せず、番町の要求にたいしてもアンケート結果を一顧だにしないゼロ回答でした。ここから新たな私たちの闘いが始まりました。ここを足がかりに私たち被災地総行動は前進します。当面する闘いは、8年分の家賃をサラ金まがいの年利の利子(延滞金)をつけて払え、払わなければ差し押さえや明け渡しをやるぞと、強制執行で神戸市が番町の住民を追い出そうとしていることに対して、これを絶対に阻止することです。今回の集会は、そのための総決起集会として位置づけていきます。ゲストにノンフィクションライターの島本慈子さんをお招きして、「阪神淡路大震災で感じたこと、現在の雇用破壊と住宅問題(仮題)について講演していただきます。また各団体の共闘の力・団結をかためる場として、寸劇や踊りなどもまじえて楽しい集会にしようと思っております。ぜひご参加下さい。(被災地総行動実行委員会のよびかけ文を一部縮めています)

対テロ給油新法粉砕へ 連続闘争にたちあがる

12・8緊急闘争に150名決起

「対テロ給油新法粉砕！防衛省疑獄を究明せよ！」シュプレヒコールの音が、人ごみの中を響き渡った。12月8日、国会前では、約150人が決起した。前防衛事務次官・守屋が逮捕された直後であり、福田政権が対テロ給油新法を強行成立させようとする中、国会が山場を迎えたこの日の闘争は、街行く人々の圧倒的な注目を集めた。



雨中の国会前で組合旗をなびかせ終日行動

12月8日対テロ給油新法に怒りを燃やす全関西の仲間が大阪・扇町公園に集まった。呼びかけは、とめよう戦争への道！百万人署名運動関西連絡会。同時に開催されている12月13日(木)の百万人署名運動関西連絡会が呼びかけた。国会前には、関東圏の百万人署名運動や9条改憲阻止の会の仲間約80人が集まり、改憲への道を開く対テロ給油新法阻止のコールを繰り返して断固たる闘いを行った。12時30分より集会を行い百万人署名運動全国事務局

が呼びかけられた。つづいて部落解放同盟全国連、婦人民主クラブと怒りあふれる発言が続いた。北河内ピクエーションの三浦守口市議員は、給油新法の問題点を憲法と照らし合わせて発言した。最後に関西合同労組石田委員長より「12月13日の『対テロ給油新法』粉砕国会行動にたとう」と行動提起がなされた。

デモは梅田の繁華街まで。おりしも師走の土曜日とあって沿道はものすごい人並みで圧倒的な注目を集めた。最後に「給油新法を粉砕しよう。福田政権を打倒しよう。08春闘・サミット粉砕にたちあがる」と確認し団結の報告があり、反弾圧ネットワークへの結果

最後に提出行動のようを百万人署名運動全国呼びかけ人の梶原さんが報告した。そして事務局より、会期再延長が不可避な情勢であるので、来年1月10日(木)午前10時国会前集合し、対テロ給油新法を粉砕しようとの提起が行われた。

15日に梅田で街頭宣伝活動

福田政権が国会会期を1月15日まで再延長することを強行採決した直後の12月15日、百万人署名運動関西連絡会が呼びかけた全関西の仲間が駆けつけた。14日の国会会期再延長対テロ給油新法を衆議院での3分の2での再可決により強行突破する方針が誰の目にも明らかになった日の行動であった。

この冬一番の寒気の中で、参加者は梅田陸橋上を進行する労働者市民に福田政権打倒・対テロ新法粉砕を訴え、約1時間の署名活動で「9条改憲を許すな！署名」52筆、「対テロ給油新法反対緊急署名」36筆を集めた。最後に、来年1月10日の国会行動、2月10日の改憲阻止集会を成功させることを確認して行動を終えた。



扇町公園に150名が集結し、対テロ給油新法阻止を誓う

「百万人署名呼びかけで12・13に国会闘争」から基調の提起があった。集会の途中で、参議院外交・防衛委員会の民主党理事の部屋を訪問し、これまでに集めた対テロ給油新法反対の緊急署名3993筆を各理事に渡し、対テロ給油新法阻止の訴えを代表団が行った。民主党議員も対テロ給油新法反対には賛意を示し、会期延長になったら必ずこの署名を理事に提出して反対のために使わせてもらうと回答した。

署名提出行動を行った仲間が帰り、集会の

「上からの革命」——農業集団化を契機とするスターリン主義支配体制の成立過程

ロシア現代史専攻の研究者、故溪内謙さんが命を賭して書いた『上からの革命』を読み始めました。

この本は溪内さんが半生をかけた書かれた4部作の「スターリン政治体制の成立」をソ連崩壊後の情勢に合わせて簡潔な一冊にまとめたものだと思います。私にとっては「ロシア革命」と「反スターリン主義」の自分自身のおさらいです。

ロシア共産党の内闘と規律

ポリシエヴィキ、ロシア共産党はその成り立ちから、ロシア革命の勝利、そしてスターリン主義独裁体制確立まで、党内闘争、党内論争、主流と分派間の葛藤など党内闘争の歴史そのものでした。

この歴史の余りにも明らかな事実は、日本共産主義者・マルクス主義者を自称する人々の中に頑強(頑迷とも言える)にあるポリシエヴィキ「一枚岩の党」というイメージとは、大きく違うものだと思います。

その後スターリンへの規律と強制に基づく権力の集中化、党内の思想的組織的硬直化によって引き起こされたもの、それがスターリン主義であり、それが世界革命の放棄、一国社会主義を核心的転回点とするコミンテルンの「革命の祖国防衛主義」への転落、各国社会主義の独自性の奪奪や「民族解放闘争の抑圧」などに現象するのです。

そして付け加えると

「読者から本の紹介の投稿が寄せられた。編集委員会の見解と同等ではないが、数回に分けて掲載する。」

すれば、レーニンがその典型であったように、ポリシエヴィキ党そのものが情勢に合わせ、路線を修正しながら、別の言い方をすればだからこそ、立ちあがる困難に対応し、危機を克服してきたと考えるべきだと思います。

今、私たちが必要とするのは、決して「内向きの閉鎖的な党」ではなく「党員に開かれた党」であり、一方大衆に大きく門を開放した多種多様な運動組織の構築なのです。これまでの悪しき固定観念を克服し、転換しないと私たちに未来はない。私たちは「一枚岩の党」という言葉を、スターリン主義によって歪曲された虚構のひとつ、幻想の産物、過去の遺物として、葬り去る必要があるのです。

もとより、権力への対応や、非常時の一時的避難・防御の道具として、一枚岩の規律も必要ではあると考えますが、それはあくまで限定されたもので、決して一人歩きしてはならないものと考えています。(続)

編集委員会からのお願い

「革共同通信」の創刊準備号をおくる。歴史的な関西労組総会を勝ち取り、革共同中央の変質をただし、革共同を奪還していく闘いが始まった。08年を日本階級闘争の危機を突破する闘いとして進めていこう。そのためには、独自の新聞が必要である。「革共同通信」を当面、タブロイド版4ページで月2回発行していく。闘いの前進の中で、6ページだて8ページだてに増やすが、当面4ページで1部200円でお願したい。

独善的で一方的な方針の垂れ流しでなく、本心に労働運動・政治闘争に役立つ新聞をめざしたい。そのためにはぜひとも読者の皆さんを訴えます。(Q)

職場での闘い・産別の闘いのレポートを集中して欲しい。(2ページ下の3段。800字以内)

闘いの案内(3ページ下段)や、読者の声(4面の3分の1。文字数は400字以内)も寄せて欲しい。(600字)も寄せて欲しい。

またルポや書評や映画評も載せていきたい。(4面下段、字数は相談)

文字入力はテキストワードを基本に、写真やJPEEGでお願いしたい。小さな新聞なので、当面向くは望まないが、読者と一体で本心に役立つ新聞にするため、皆さんの協力を訴えます。(Q)

本を紹介

溪内 謙 『上からの革命』

を読んで(1)

岩波書店 刊 大山 俊

「上からの革命」——農業集団化を契機とするスターリン主義支配体制の成立過程

ロシア現代史専攻の研究者、故溪内謙さんが命を賭して書いた『上からの革命』を読み始めました。

この本は溪内さんが半生をかけた書かれた4部作の「スターリン政治体制の成立」をソ連崩壊後の情勢に合わせて簡潔な一冊にまとめたものだと思います。私にとっては「ロシア革命」と「反スターリン主義」の自分自身のおさらいです。

ロシア共産党の内闘と規律

ポリシエヴィキ、ロシア共産党はその成り立ちから、ロシア革命の勝利、そしてスターリン主義独裁体制確立まで、党内闘争、党内論争、主流と分派間の葛藤など党内闘争の歴史そのものでした。

この歴史の余りにも明らかな事実は、日本共産主義者・マルクス主義者を自称する人々の中に頑強(頑迷とも言える)にあるポリシエヴィキ「一枚岩の党」というイメージとは、大きく違うものだと思います。

その後スターリンへの規律と強制に基づく権力の集中化、党内の思想的組織的硬直化によって引き起こされたもの、それがスターリン主義であり、それが世界革命の放棄、一国社会主義を核心的転回点とするコミンテルンの「革命の祖国防衛主義」への転落、各国社会主義の独自性の奪奪や「民族解放闘争の抑圧」などに現象するのです。

そして付け加えると